

普及活動情勢報告（令和5年10月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

常温煙霧を活用した病害防除試験 ～省力化を目指して～



調査中の普及指導員

嶺北地域の米ナス栽培では、薬剤防除が高齢化のため重労働となり、防除が適期にできず、黒枯病を中心とした病害が問題となっています。そこで、省力的かつ適期に病害防除を行うことを目指し、常温煙霧を活用した実証試験に取り組んでいます。

実証農家は「省力的に病害防除ができて大変よい。栽培終了までこの調子で病害を抑えていきたい」と話しており、現在のところ、前年度に比べ各種病害の発病は大きく減少しています。

今後、普及所は部会で調査結果等の情報共有を行い、病害防除の省力化技術の確立や普及に取り組んでいきます。

収量向上を目指して ～カラーピーマン部会現地検討会～



現地検討会で説明する普及指導員

9月22日、JA高知県れいほく園芸部カラーピーマン部会が現地検討会を開催し、部会員10名が参加しました。

JAからは耕種概要およびほ場の衛生管理について説明し、普及所からは、気温が下がっていく時期の温度管理の注意点やかん水方法、仕立て方について説明を行いました。

参加者からは「今年は定期的に硫黄を散布したことで、病気の発生が抑えられた」という声がありました。仕立て方については特に活発に意見交換が行われました。

今後も普及所は、JAと連携して栽培管理技術の向上に取り組んでいきます。

稲こうじ病を予防する！ ～防除技術の実証～



病粒数をカウント中

10月3日、普及所は農研機構が開発した「イネ稲こうじ病の薬剤防除マニュアル」を参考に防除した、本山町及び土佐町の生産者4戸のほ場で稲こうじ病の病粒数を調査しました。

本山町では銅剤を、土佐町では転炉さいと稲こうじ病対策の薬剤の組み合わせにより防除を行いました。本調査は3カ年計画で実施し、今作で2年目となりますが、調査の結果、すべての試験区で病粒数は慣行区より半分以下の数となりました。

生産者からは「防除の効果がよく分かる。すごく良い」と高く評価されました。

普及所は来作も引き続き、マニュアルを参考にした防除指導を行っていきます。

ミニトマト現地検討会 ～品質向上を目指して～



意見交換を行っています

10月6日、JA高知県れいほく園芸部ミニトマト部会は現地検討会を開催し、部会員8名、大豊町役場2名、JA1名、普及所2名が参加しました。

参加者は、ほ場の様子を確認しながら、今作の反省点や次作に向けての対策について意見交換しました。

普及所からは、今後の温湿度管理や摘花試験の経過、月末に行う他産地視察の計画を説明しました。部会員からは着果負担対策や、視察先の栽培方法について質問がされ、情報収集の意欲の高まりが感じられました。

今後も普及所は、ミニトマトの高品質・安定生産に向けて生産者を支援していきます。

地域の人と農地の将来像を考えよう ～地域計画作成にむけて話し合い開始～



地図で農地の状況を確認

10月16日、大豊町西峰地区で、住民代表7名、関係機関6名が参加し、地域計画作成に向けた説明会が開催されました。

大豊町役場からアンケート配布など作成の手順を説明し、地域住民から工程に関して意見を募りました。その後地図上で自分の農地に「維持」「縮小」など色分けをして、アンケート結果がどう反映されるのか体験しました。普及所は町に対して事前に意向調査の方法や説明会の持ち方に関して助言をし、当日は地図を見ながら計画作成の説明や状況の聞き取りを行いました。

住民からはアンケート回収手法や不在者への対応や、農地情報を精度高く収集したいなど、農地の将来を考えることへの前向きな提案がありました。

今後も普及所は、地域計画を通して地域の将来を考える取り組みを支援していきます。